

○紐解きまけな

作詞:山上憶良/上野紘史 作曲:上野紘史 編曲:上野紘史 演奏:はるひの
withDODOWAKA

「天(あま)の川相向き立ちて我が恋ひし君来ますなり紐解き設(ま)けな」(山上憶良)
▷巻8-1518

(あまのかわ あいむきたちてわがこいし きみきますなりひもときまけな)

現代語訳:天の川に向かいたって私が恋い慕っていたあなたが来られるようです。紐を解いて待っております。

上野紘史が現代語歌詞を追加しました。

解説:この歌は山上憶良が七夕を詠んだ12首の歌のひとつ。首皇太子(後の聖武天皇)の命によって七夕の歌を読んだとのこと。 「紐を解いて待とう」とは、もちろん織姫が服の紐を解いて待つ意味ですが、性に対しておらかな時代だったとはいえ、皇太子に献上する歌にこんな歌を詠んだことには恐れ入ります。

(万葉集入門解説:黒路よしひろ)

歌詞

A: 真夏の夜に熱く胸こがす

オレだけ? そんな訳ないだろう

B: 山上臣憶良(やまのうえのおみおくら)が詠んだ和歌が浮かぶ Ah

天(あま)の川相(あい)向き立てて我(あ)が恋ひし君 来ますなり

サビ: 紐 mo mo mou としまけな×4